



初等部だより 1月号

鎌倉女子大学初等部

平成28年1月7日

第11号

故郷のお正月に思うこと！

部長 松本 安博

新年、明けましておめでとうございます。各ご家庭におかれましては、今年も幸多き一年となりますことを、心よりお祈り申し上げます。

今年は「申年」(さるどし)。干支については、おめでたい様々な言い伝えがあります。「申」という字には、「草木がすくすく伸びて熟成し、多くの恵みをもたらす。」や「病が去り、健康で暮らせる。」などの意味が込められているようです。また、勝手なこじ付けになりますが、私は「人や場は去ってみて、初めてその有難さや尊さに気付く。」といった意味合いもあるように思っています。私もこれらの意味を大切に、日々を過ごしていきたいと思えます。

「故郷は遠きにありて思うもの」と、よく申します。故郷で大晦日を迎えた私は、子ども時代もそうでしたが、今年も「紅白歌合戦」の後半に差しかかった頃、洗面器を抱えて銭湯に出かけました。この年齢ですので、既に両親はいませんが、「銭湯はこの時間帯が一番空いている。」との父親の言葉が未だどこかにあるようです。時代が変わり、大晦日の過ごし方も変わってきていますが、この言葉は今も通ずるようで、実際空いていました。銭湯からの帰り道、二丁先にある神社にお参りに行く家族連れとすれ違いました。凜とした空気の中で、行き交う人の足音、漏れてくるテレビの歌声、今年もまもなく聞こえる除夜の鐘の音など、故郷には今もなお懐かしい音があります。

私が家に戻ったとき、「紅白歌合戦」は終盤を迎えていました。ちょうど「おふくろさん」の曲が流れていました。この曲を聞くと、当時は煩わしく思っていた母親の言いつけがこの曲にかぶさって思い出されます。それは、その曲のさびの箇所に係る言葉です。

♪♪ (省略) お前もいつかは 世の中の
傘になれよと 教えてくれた あなたの
あなたの 真実 忘れはしない! ♪♪

二番の「花のこころの 潔さ 強く生きよと 教えてくれた」と三番の「お前もいつかは世の中に 愛を灯せと 教えてくれた」の言葉です。「人に迷惑をかける人になってはいけない。人のためにも頑張れる人になりなさい。」と、よく言われていました。たくさんの思い出の中に、今も自分を支えている大事な言葉があることを改めて噛みしめた次第です。私は、建学の精神「感謝と奉仕に生きるこころ」とともに、名曲の歌詞にあるこれらの言葉を誠に恐れ多いことですが、いつまでも心の片隅に締まって置きたいと思えます。

さて、一月七日、今日から三学期が始まりました。今朝の朝食、「七草粥」のご家庭もあったことと思えます。私も無病息災を祈念して、今朝は「七草粥」をいただきました。

- 〔せり〕 競り合って生えることから名づけられました。
- 〔なずな〕 花が咲いた後の実が逆三角形で、三味線のばちに似ていることからペン草とも言われています。
- 〔ごぎょう〕 日当たりのよいところにかたまって生える二年草です。
- 〔はこべら〕 早春に小さな白い花を付ける二年草です。
- 〔ほとけのぞ〕 田平子とも書き、冬に葉を広げる二年草です。
- 〔すずな〕 古来から盛んに栽培されてきた野菜(かぶ)のことです。
- 〔すずしろ〕 食卓によく出る野菜(大根)のことです。

故郷には、人として忘れてはならない思い出があります。そして、人として見失ってはならないところがあります。

教職員一同、今年も初等部生の一人ひとりにとって、こころの故郷となる学び舎づくりに力を尽くしてまいりたいと思っています。何卒よろしくお祈り申し上げます。